

成果指標				
成果指標	認定調査件数			
指標設定の考え方	介護認定審査会に諮るための調査資料とするための調査業務であるため、認定審査会での認定者数を推計するための数値設定。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	
目標	2300	2300	0	0
実績	2406	2333	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	適切な事業進行ができた。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	C
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	要介護度を認定審査会が決定するために必要な資料を作成する認定調査事務である。介護保険サービスを受けるために必須な事務であり、経費削減に努めながら継続する必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	評価委員会抽出事業

行政評価委員会の答申

<p>外部評価 (行政評価委員会)</p>	<p>・「介護認定審査会事業」とは別にしないといけないのか。介護の分野に関しては分からないことばかりである。・申請主義であり、必要な方にちゃんとサービスが行き渡っているのかどうか、実態をつかむべきである。・認定審査会に諮るための調査資料を作成する事務と受け止められるのだが、結構な手間暇とお金がかかる。所属長の課題認識に経費削減に努めながら継続する必要があると記述しているが、どこをどう削れば事業費の削減になるのか、ざっと見たところではよく分からない。</p>
---------------------------	--

経営者会議の最終判断

<p>事業の方向性</p>	<p>現状のまま継続する。</p>
<p>意見、課題</p>	